

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2015年6月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 5月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともにほぼ横這いで推移した。5月は米国ドルが全面高の様相を呈していたが、その中で人民元（現物実勢）が下落しなかった背景には中国人民銀行が基準値を高め設定し続けたことがある。
- 当面の人民元（現物実勢）はボックス圏での推移を予想している（取引レンジは1米国ドル=6.12~6.27元）。米国では利上げが視野に入る一方、中国では利下げが視野に入っていることから、人民元は売られ易い環境ではあるが、中国人民銀行は基準値の高め設定を継続すると見られることから、弱含みでも急落しない相場展開が続くだろうと見ている。

[5月の動き]

5月の人民元相場（対米国ドル）は基準値・現物実勢ともにほぼ横這いで推移した。基準値は高値が18日に付けた1米国ドル=6.1079元、安値が28日に付けた同6.1202元と小幅な変動幅に納まり、5月末は前月末比0.1%下落と小幅に下落した。一方、現物実勢（スポット・オファー、中国外貨取引センター）は、安値が11日に付けた1米国ドル=6.2097元、高値が21日に付けた同6.1970元で、同6.20元前後で小刻みな変動を経た後、5月末は前月末比0.1%上昇と小幅に上昇した（図表-1）。

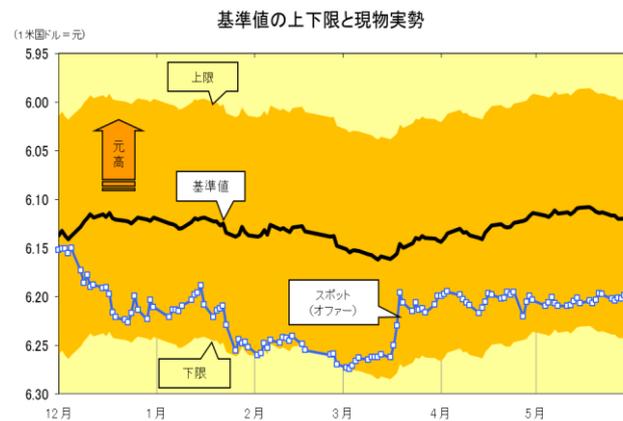
米国では、連邦準備制度理事会（FRB）のイエレン議長が米国株は割高と発言したことや年内の利上げに言及したことなどから、米国ドルが全面高の様相を呈していた。その中で、人民元（現物実勢）が下落しなかった背景には中国人民銀行が基準値を高め設定し続けたことがある。許容変動幅の下限が同6.24元前後と下値余地が小さかったため、横這いで推移したと見られる（図表-2）。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

| | 基準値 | | 現物実勢 | |
|-------|--------|----------------|--------|---------------|
| | | 前日比 (注) | オファー | ビッド (注) |
| 4月末 | 6.1137 | - | 6.2035 | 6.2026 |
| 5月4日 | 6.1165 | 0.0028 | 6.2093 | 6.2090 |
| 5月5日 | 6.1180 | 0.0015 | 6.2063 | 6.2060 |
| 5月6日 | 6.1156 | ▲0.0024 | 6.2007 | 6.2003 |
| 5月7日 | 6.1113 | ▲0.0043 | 6.2070 | 6.2065 |
| 5月8日 | 6.1147 | 0.0034 | 6.2094 | 6.2091 |
| 5月11日 | 6.1132 | ▲0.0015 | 6.2097 | 6.2091 (当月安値) |
| 5月12日 | 6.1155 | 0.0023 | 6.2092 | 6.2086 |
| 5月13日 | 6.1123 | ▲0.0032 | 6.2049 | 6.2043 |
| 5月14日 | 6.1093 | ▲0.0030 | 6.2018 | 6.2013 |
| 5月15日 | 6.1085 | ▲0.0008 | 6.2066 | 6.2061 |
| 5月18日 | 6.1079 | ▲0.0006 (当月高値) | 6.2044 | 6.2041 |
| 5月19日 | 6.1098 | 0.0019 | 6.2069 | 6.2064 |
| 5月20日 | 6.1125 | 0.0027 | 6.2038 | 6.2036 |
| 5月21日 | 6.1139 | 0.0014 | 6.1970 | 6.1965 (当月高値) |
| 5月22日 | 6.1131 | ▲0.0008 | 6.1976 | 6.1972 |
| 5月25日 | 6.1165 | 0.0034 | 6.2023 | 6.2020 |
| 5月26日 | 6.1165 | 0.0000 | 6.2040 | 6.2038 |
| 5月27日 | 6.1198 | 0.0033 | 6.2015 | 6.2011 |
| 5月28日 | 6.1202 | 0.0004 (当月安値) | 6.2019 | 6.2009 |
| 5月29日 | 6.1196 | ▲0.0006 | 6.1986 | 6.1980 |

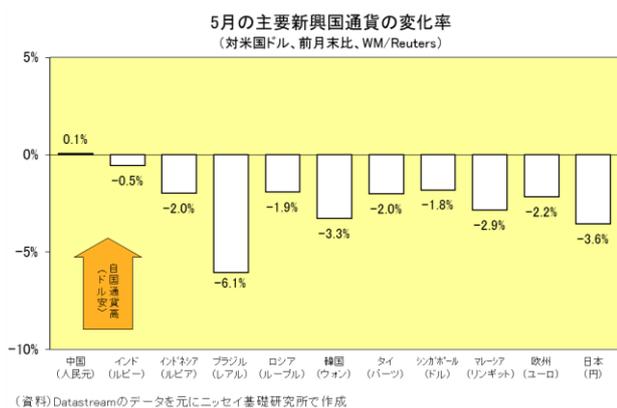
(資料) CEIC(中国外貨取引センター)

(図表-2)



一方、世界の通貨の動きを見ると前述のとおり米国ドルが全面高の様相を呈していた。主要通貨では欧州ユーロが前月末比 2.2%下落、日本円が同 3.6%下落したほか、新興国通貨でも、ブラジル（リアル）が前月末比 6.1%下落したのを筆頭に、アジア新興国の通貨も米国ドルに対して軒並み 2%前後下落することとなった（図表-3）。なお、5月は人民元がほぼ横這いで推移する一方、日本円は下落したことから、人民元は日本円に対して上昇した。27日には基準値で 100 円=5 元（1 元=20 円）の大台を突破、28日には現物実勢もその大台を超えている。これは 1994 年 1 月 1 日に二重相場制¹から管理変動相場制へ移行して以降の最高値水準である（図表-4）。

（図表-3）



（図表-4）



【 今後の展開 】

さて、当面の人民元（現物実勢）はボックス圏での推移を予想している（取引レンジは 1 米ドル=6.12~6.27 元）。米国では利上げが視野に入る一方、中国では利下げが視野に入っていることから、人民元は売られやすい環境にある。しかし、6月 22-24 日に米中戦略・経済対話を控える中で、中国人民銀行は基準値の高め設定を継続すると見られることから、弱含みではあっても急落しない相場展開が暫く続くだろうと見ている。

米国で仮に予想以上の景気指標ができれば、利上げ時期が前倒しになるとの思惑から米国ドルが上昇し人民元は下値を試すことになると見られるが、3月に付けた直近安値（1 米ドル=6.2747 元）に近づけばドル売り元買い介入への警戒感が高まるだろう。一方、中国で予想以上の景気指標ができれば、追加利下げの可能性が低下して人民元は上値を試すものと見られるが、単月の指標だけで景気失速懸念を払拭するのは難しく、昨年 10 月に付けた直近高値（同 6.1112 元）を突破する力はないと思われる（図表-5）。

（図表-5）



¹ 「二重相場制」では「公定レート」と「市場レート（又は調整レート）」の2つの為替レートが並立していた

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。